

祭礼の担い手としての外国人 ——大泉まつりを事例に——

Foreigners as participants in Japanese festivals —Example of Ooizumi summer festival—

コレダエヴァ・アリョーナ（筑波大学）
Koldaieva Alona (University of Tsukuba)

キーワード：日本祭礼、外国人、日系ブラジル人、夏祭り、サンバパレード

Keywords: Japanese festivals, foreigners, Japanese Brazilians, summer festival, Samba parade

要旨

本発表では大泉町の大泉まつりを事例にして祭礼の場で作成されている外国人・日本人の関係が地域の生活史及び日本と外国人の文化へもたらす影響について考察を行う。

大泉まつりでは外国人の存在が目立つようになったのは 1990 年代である。その時、行政の決定によって大泉まつりではサンバパレードが導入された。同時に日系ブラジル人を中心にし、大泉町では日系ブラジル人の文化の観光資源化が始められた。

一方で 90 年代末に警備の問題でサンバパレードが中止されざるを得なかったが、既に町の文化の一部としてブラジル町は組み込まれていたのである。

サンバの観光資源として再び現れるのは、2007 年に大泉町で初めて観光協会ができた際の、そのメイン活動の一つとしての大泉町でサンバカルナバルの開催である。その開催は 1 年に 1 回という程度で、2017 年まで 10 年の間続いていた。ただし、場所と交通の問題があつて、観光客は少なかった。そのため、2017 年はサンバカルナバルの最後の年となった。

さらに、大泉町で南米系以外の外国人が滞在するようになった後、行政が日系ブラジル人以外の外国人の文化を町の観光シンボルにした。そのため、大泉町の民間組織の発案で 2010 年代には大泉まつりにはミニサンバパレードと共に、ネパール人のパレードが導入された。

その上、サンバカルナバルの代わりに、大泉町観光協会が毎月様々な国から来日した外国人が母国の料理を紹介できる「グルメ横丁」というイベントを開催するようになった。そこには大泉町の外からも店の運営者が参加に来ている。そのため、グルメ横丁では南アメリカやネパールの料理以外、ロシア料理やトルコ料理の店も出ている。

さらに、大泉まつりの際には大泉町観光協会が国際ステージの開催を担当する。そこでは毎年、サンバや日本文芸以外、ペルーの伝統的な踊りやネパールの踊りを紹介し、外国人の参加者も多い。

発表者は、以上の大泉まつりへの外国人の祭礼参加に影響を与えた国際協力に関わる要因として 1990 年代に見られた「ゴミ分別」にまつわる行為を強調したい。大泉町では「ゴミ分別」を注意した日本人とそのルールがあまり分からなかった外国人が、お互いの言語による意思疎通が十分ではなかったにも関わらず「ゴミ分別」の問題を解決し、相互理解を構築した過程が見られる。発表者は、自身のフィールドワークの経験から、その小さい行為から始まった大泉町で見られる国際協力と「民俗の国際化」について考察する。

また、大泉まつりを事例にし、外国人の観点を含めた祭礼研究の新たな研究視角を提案することを試みる。